

情報通信審議会情報通信技術分科会  
航空・海上無線通信委員会 地上型衛星航法補強システム作業班（第4回）  
議事要旨

- 1 日時  
平成30年6月29日（金）10時30分から11時30分まで
- 2 場所  
総務省10階第1001会議室
- 3 出席者（敬称略、五十音順（主任を除く））
  - (1) 構成員  
小瀬木主任、久保主任代理、上田構成員、小竹構成員、金田構成員、菊池構成員、辻構成員、仁平構成員、福島構成員
  - (2) オブザーバー  
城オブザーバー
  - (3) 事務局  
基幹・衛星移動通信課 高地課長、林分析官、金子課長補佐、服部係長、山本官
- 4 議事概要
  - (1) 地上型衛星航法補強システム作業班報告書（案）について
    - 資料 GBAS 作4-2に基づき説明（事務局）
    - V-Low マルチメディア放送の事業者として、実際に GBAS を運用する際には、この技術基準に基づいて十分な事前検討を行った結果を共有していただき、確認させていただきたい。また、事前検討で影響なしと確認した場合でも、電波発射の中で V-low に影響が発生した場合については、適切に対処をしていただきたい。（仁平構成員）
    - 報告書 p. 34 の不要発射の強度の測定について、電波法上のスプリアス発射の数値と報告書にある不要発射と両方の数値を出さないといけないものなのか。それとも、不要発射の数値だけで良いものなのか。（辻構成員）
      - ITU-R SM329 において変調状態でマスクの測定を行うという理解だが、製造メーカーが実際に変調状態で行っているかは不明。変調状態で測定を行うと、報告書 p. 12 にある不要発射の許容値では条件を満たすことは厳しいところがあると思っている。国内の電波法の無線設備規則別表3号では、帯域外領域は無変調状態で、スプリアス領域は変調状態で測定を行うよう定められているので確認が必要である。（小竹構成員）
      - ATC トランスポンダや TCAS は、変調状態でマスクの測定を行っていると同っている。（小瀬木主任）
      - 関西空港で実験局の開設を行った時は、同様の VDB 送信機に対して変調状態で測定を行っている。（福島構成員）
      - ICAO Annex10 Vol.1 表 3.7.3.5-2 でマスク規定されているので、スプリアスよりも不要発射で定義されている。基本波の 2.5BN の内側外側とで区別はなく、

マスクとして ICAO で規定されているので、日本も同じようにしたいと考えている。(事務局)

○報告書概要 p.2 の金浦空港について、弊社 (ANA) も就航している。(菊池構成員)  
→事務局に訂正をお願いします。(小瀬木主任)

○他に意見がないようなので、当該報告書は7月11日(水)に開催される航空・海上無線通信委員会で報告する。(小瀬木主任)

○VIP 仁平様から依頼があった免許の際の確認については、総務省でも最大限尊重していきたいと考えている。(事務局)

<配付資料>

資料 GBAS 作4-1 地上型衛星航法補強システム作業班報告書 (案)

資料 GBAS 作4-2 地上型衛星航法補強システム作業班報告概要 (案)

参考資料 GBAS 作4-1 第3回地上型衛星航法補強システム作業班議事要旨

参考資料 GBAS 作4-2 地上型衛星航法補強システム作業班構成員名簿